

# 学が古境

## 学生は今

50年間で約45倍にもなった大学の授業料(国立大平均)。学費をまかなうため、卒業後は借金となる奨学金と、生活を支えるためのアルバイトが学生が学ぶための妨げになっています。西日本の国立大学で学生生活の美態に迫りました。

### ■バイト苦

日本民主青年同盟(民青)A県委員会が主催する食料支援プロジェクト。コロナ禍が始まった4年前から学生向けに食料を無料で配布し、毎週取り組んできました。この日も、常連の利用者やSNSで情報を得た学生たちが、始める前から列をなしていました。

# 不安はお金 食料支援に列



食料支援プロジェクトでレトルト食品や野菜、お菓子などを選ぶ学生たち

入学当初から毎週利用しているという学生は、家賃は親に払ってもらっていますが、月5万円の貸与奨学金は全額学費にあて、生活費はアルバイトでまかっています。「スパーと飲食店のバイトを掛け持ちして、ほぼ毎日働いています。遠出はしないし、生活に余裕はありません。研究を続けるために大学院に進学したのですが、その場合は必要経費を全額自分で払うように言われてあきらめました」

数回目の利用だと話す学生も、アルバイトで生活費をまかなっています。「ショッピングモールの倉庫整理で、週20時間ほど働いています。お金がないので飲み会などは控えています。そのせいで人間関係が希薄になったと感じています」

開催時間中、学生たちがひっきりなしに訪れ、山と積まれているレトルト食品やお菓子、野菜はほぼなくなりました。この日は1時間で68人が利用しました。

### ■借金大変

「大学での学びはとても楽しいです」と話すのは、同大学理学部で学ぶ2年生の園部悠里さん(仮名)。2年生の後期で専門性も徐々に高まり、課題も少しずつ難易度が上がっています。その分学んでいくワクワクするといいます。「数学や物理学など複合的な

知識を使って現象のメカニズムに迫っていくのはとても難しい。難しい分、楽しいです」大学院への進学を希望していますが、不安はお金のことです。今、無利子の貸与奨学金を毎月5万円借りています。大学卒業時には240万円の借金になります。「奨学金返済のことを考えると、自分の将来が不安になってきます」と吐露します。

家賃は親が払っていますが生活費は月3万円ほどをアルバイトで稼いでいます。平日は授業と部活、週末は丸一日アルバイトで、休みはありません。「正直言って忙しい。だいがギリギリの生活です」他の先進国と比べても突出して高い日本の大学授業料。「与えられた環境で自分がどうするか、と考えがちですが、高い授業料を返されるのなら、変えたいです」と話します。(つづ)